

## 千種区田代町「瓶杙」

1979年、やっと名古屋に就職が決まり、池下の不動産屋さんで見つけたのが、「新池ビル」という古い賃貸住宅。自宅前に新池があり、ベランダから東山公園が眺められるので、ここに決めた。写真は最近撮った新池の交差点。右に行くと星ヶ丘、真っすぐ北に行くと平和公園。左端に見えるのが「新池ビル」解体後の豪華なマンション。

当時の住所は田代町<sup>かめいり</sup>瓶杙という町名だった。「瓶杙」という地名に前から関心があった。先に紹介した『千種村物語』に、「瓶杙」の由来が書いてあった。

星ヶ丘は高針方面と一社方面への道の分岐点に当たり、以前は「追分」と呼ばれていました。狭い道の両側には松や竹が茂って、実にさびしいところでした。この付近一帯は「瓶杙」という地名になっています。「瓶杙」の地内は広く、星ヶ丘の北方の丘陵から東は旧猪高村に接し、南方は東山公園内の上池を取り囲むようにして、旧天白村まで続いていました。「瓶杙」の地名の由来について、末森が須恵器、すなわち焼きものに関係がある地名なので「瓶」もそんなところから来たのだろうといわれます。しかし「杙」はため池の水門のことで、昔はほとんど木で造られました。したがって「カメイリ」は「上杙」のことだと思われま

交差点の東方、星ヶ丘小学校の北側に「濁池」がありました。『寛文覚書』にも載っている古い池で、広さは三反(約30アール)ほど、小さな木製の杙がありました。この杙が新池のそれに対して「上杙」と呼ばれたのが地名の起源なのでしょう。

星ヶ丘の北方の丘陵地は、江戸時代川名村支配の山でした。…… 追分から右へ坂を上るのが高針道で、坂を上った猪高村との境界付近は切通しになっていて、両側は赤土がむきだしの高い崖でした。

高針道については、千種区史にも次のように書かれている。高針道は本山からはほぼ広小路線に沿って進み、一ノ嶺坂を上って新池のほとりになる。池の南岸を大きく迂回して、現在の三越百貨店の前に達すると、そこには地元の井上一族が営む茶店があり、通行する農民たちの手ごろな休憩所であった。「追分」と呼ばれた現在の星ヶ丘は、高針と上社方面との分岐点である。しかし旧藩時代は現在とちがって、上社への道は急坂が多く、通行する人々も少なかった。高針への道が本道であったのである。



(2017年6月3日)